



由布市 YUFU CITY COUNCIL

議会だより

No.72

2023年11月



庄内町中の稲穂なか

CONTENTS

- 令和5年第3回定例会 概要 1
 - 議案質疑 1～2
 - 常任委員会報告 3～4
 - 令和4年度決算審査 5～6
- 市政を問う（一般質問） 7～10
- 視察研修報告 11～13
- 議会活性化調査特別委員会 報告 14
- 議員研修会報告 14
- 大分県後期高齢者医療広域連合議会 報告 14
- 請願・陳情結果、賛否一覧、編集後記等 裏表紙

令和5年 第3回由布市議会定例会 概要

9月5日～9月22日 18日間

令和5年第3回定例会が9月5日に開会され9月22日までの18日間開催されました。
 今定例会で提案された報告11件、認定2件、諮問1件、承認2件、議案10件を審議しました。提案された議案等すべて原案通り認定・承認・可決としました。また、請願3件については、2件を採択、1件を趣旨採択としました。
 令和4年度決算特別委員会を設置し審議しました。詳細は5～6ページです。

専決処分を承認

令和5年度由布市一般会計補正予算(第4号)(第5号)の専決処分について承認しました。
 主な内容は、承認第7号、一般会計補正予算(第4号)の2億171万8千円は令和5年6月30日からの大雨災害に係る緊急対応に要した、査定に向けた委託料及び補助対象外の土砂排除の緊急工事等の災害対策費。

また、承認第8号、一般会計補正予算(第5号)の2,491万5千円は物価高騰の影響を受けている高齢者、障がい者、幼児・保育施設等に対する物価高騰分の補てん、及び令和5年7月大雨災害に係る住宅被害復旧支援金などに対応するため。

補正予算を可決

一般会計補正予算では歳入歳出それぞれ2億9,520万円を追加し、総額216億1,398万5千円となりました。

主な事業は、旧湯布院公民館跡地整備事業の外構改修工事設計委託料220万円、特殊詐欺等防止機能付電話機200台分の購入補助金増額、住民税非課税世帯給付金300万円の増額、挟間中学校プール改修工事費3,894万円、災害対応事業1,800万円は県災害復旧支援事業補助金を活用し施設修繕及び流出した機械等の補助金です。

国民健康保険、後期高齢者医療、介護保険及び農業集落排水事業に係る特別会計の補正は繰越金の確定によるものです。

水道事業会計補正予算の主な内容として、資本的支出における請負工事費増額1,947万円は挟間町東行地区の水圧不足解消にユニット型ポンプを設置するものです。

本会議で決まりました。

- ◎ 由布市過疎地域持続的発展計画の変更
- ◎ 字の区域の変更(柚ノ木地区)
- 【 請 願 】
- ◎ 地方財政の充実・強化に関する意見書を採択
- ◎ 義務教育費国庫負担制度堅持を求める意見書を採択
- ◎ インボイス制度の実施延期を求める意見書を政府に送付することを求める請願を趣旨採択

人権擁護委員の推薦

人権擁護委員の任期が、令和5年12月31日をもって満了となるため、新たに人権擁護委員として、前谷 希美氏(挟間町)の推薦について適任と答申しました。

議 案 質 疑

報告

専決処分の報告(市の過失による事故について損害賠償、和解の件)



Q 金鱗湖の遊歩道の破損原因と今後の維持管理について問う。

A 原因は、ここ数年の大雨等により浸水して浸食・腐食が進んだ。それにインバウンドを中心に金鱗湖周りはお客様の往来も多く、今回の原因と分析している。今後は、月末には定期的に検査・確認をし、見過ごす事のない様対応していく。

専決処分の報告(市道八山線の陥没による車両損害の損害賠償、和解の件)

Q 原因は排水不良からの越水による浸水と大型車の交通量によるものだが、舗装厚や路盤厚など道路設計をどの様に考えているか。上に舗装を掛け替えるのか、構造自体を変えるのか。

A 今回は掛け替えの形で当面いく。ただし、八山橋の架け替えが予定されているので、再度計画を考えている。

令和5年度由布市教育委員会の事務の管理及び執行状況に関する点検・評価（令和4年度執行）報告

Q 不登校の数は増加傾向にある。年間の相談数は。

A いじめ・不登校に係る教育相談体制、スクールカウンセラーの昨年度実績は児童生徒775回、保護者126回、教職員433回実施。スクールソーシャルワーカーも家庭訪問と面接を78日間実施。

Q 学校運営協議会の目的と委員の役割は。

A 学校運営協議会は平成26年、由布川小学校、挾間中学校からスタート。平成30年までに市内に設置。その部分で、学校評議員の中から運営協議会への移行の形で、コミュニティスクールで導入している。連携については、学校運営協議会の中に推進委員とコーディネーター的役割を行ってくれる公民館の関係者も学校運営協議会の委員に属するというので、各種連携がしっかり取れる様に実施している。目的は、子ども達が抱える課題や実態を、地域・学校でどのように育てていきたいかの目標（ビジョン）を互いに共有しながら、より良い教育の実現を目指し取り組むこととしている。また役割は、学校運営の基本方針の承認や意見を述べる権限がある。

承認

令和5年度由布市一般会計補正予算（第5号）

Q 新型コロナウイルス緊急対策事業（福祉医療）の1,996万8千円の内容は。

A 大分県が7月に補正予算上程し9月から実施する、社会福祉施設物価高騰対策緊急支援補助金の由布市分の負担金。電気や食料材料費等高騰分の経費に対する交付金。

議案

令和5年度由布市一般会計補正予算（第6号）

Q 由布市に住みたい事業、確定した世帯数と人数、予測の分もあるのか。移住支援金の単価は。

A 移住支援金440万円の対象者は5名の予定。空き家バンクの登録物件は最大7件を見込んでいる。確定している世帯と人数は、7月末で44世帯の72名。支援金単価について、単身は60万円、世帯の場合は100万円、空き家バンクは基本、売買の場合は100万円、賃借の場合は50万円、地域が過疎の場合はルールの限度額が違うこともある。

Q 1人上限2万円のおむつクーポン券は何名分か。

保育園が使用済みオムツを処分するが、保育園に対する支援はないのか。

A 3歳未満児1人当たり2万円のクーポン券配布が750人分。使用済みオムツについては、高齢者支援、障がい者施設も関わってくる問題と考え、保育園のみという事は今のところ考えてない。

Q 子ども・子育て支援ニーズ調査業務の具体的内容と調査期間は。結果の対策は。

A 子ども・子育て支援法に基づく、第3期子育て支援事業計画を策定するのに必要な調査。調査期間は本年11月～来年1月までの予定。県が共同調査方式で実施することが7月に決まった。内容は県の仕様書に基づき行い、結果は令和7年度第3期子ども・子育て支援計画に反映させる。ただ、由布市の効果的な子育て施策を考えるため、市独自の調査項目を追加する予定。

Q 災害対応事業1,800万円の内容は。

A 6月30日の大雨による湯布院町川西畑倉の土砂災害により、アユの稚魚および生産施設（養殖池、水車、自動給餌機、選別機）に大きな被害をもたらした。早期復旧を図るため、補助対象経費2,700万円に対し、県と市がそれぞれ1/3を補助する。

Q 小学校施設管理事業、工事請負費に挾間小学校の特別支援教室の間仕切りとあるが、今教室が足りていないのか。今後、挾間小学校が増築されるが、児童増加により支援教室にしわ寄せとならないよう願う。

A 挾間小学校は令和3年より特別支援教室を2クラス増やし、パーティションで教室を仕切って活用しているが、授業に支障を来すため、しっかりした間仕切りを設置する事となった。2クラスではそれぞれ6名、5名が活用しており、空間的にはまだゆとりがあると考えている。今後、挾間小学校の増築工事にかかるが、特別支援の増加も加味した上で設計している。

総務常任委員会

承認 専決処分の承認を求めることについて

令和5年度由布市一般会計補正予算(第4号)

一般会計歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ2億171万8千円を追加し、歳入歳出予算の総額を212億9,387万円とするもの。

令和5年度由布市一般会計補正予算(第5号)

一般会計歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ2,491万5千円を追加し、歳入歳出予算の総額を213億1,878万5千円とするもの。

全て、全員一致で承認

由布市過疎地域持続的発展計画の変更について

大分県が事業主体である「経営体育成整備事業(柚ノ木地区)」の名称が「水田畑地化推進基盤整備事業」に変更されたことに伴うもの。

豊後大野市の公の施設を由布市の住民の利用に供させることに関する協議について

豊後大野市が設置する「三重全天候型運動場」を、由布市の住民の利用に供させることに伴うもの。

令和5年度由布市一般会計補正予算(第6号)

一般会計歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ2億9,520万円を追加し、歳入歳出予算の総額を216億1,398万5千円とするもの。

当委員会に係るものとして、市民提案型連携協働事業については、9件の提案があり、最終的に1件を選定、その経過について報告を受けた。

歳出の主なものとして、由布市に住みたい事業に移住支援金5名分440万円、空き家バンク登録物件改修費用補助金7件分500万円の増。移住希望者の増が想定より見込まれたため。

小規模集落支援事業費補助金391万4千円は、大津留まちづくり協議会の特産品開発に係る補助金。

旧湯布院公民館跡地整備事業の220万円は、跡地整備に係る由布院小学校敷地内の外構改修工事における設計業務委託料。

防犯体制確立事業では、近年多発する特殊詐欺被害に対応するため、特殊詐欺等防止機能付電話機200台分の購入補助費200万円の増額。

※特殊詐欺防止機能付き電話機の性能は、電話の着信時に相手方に警告音声を発する機能を有し、かつ通話中その内容を自動で録音する機能がある事。もしくは、迷惑電話番号データベースに登録された情報等によって被害を引き起こす可能性のある電話番号を自動で判定し、着信を拒否またはランプ等で警告を表示する機能を有する電話機の購入が補助対象。

全て、全員一致で原案可決

産業建設常任委員会

承認 専決処分の承認を求めることについて

令和5年度由布市一般会計補正予算(第4号)

令和5年6月30日から的大雨災害により農業用施設、林業施設、公共土木施設の災害復旧対応に要したもので、流出した土砂や倒木等の緊急除去工事費である。

全員一致で承認

字の区域の変更について

庄内町北大津留柚ノ木地区の土地改良事業竣工に伴い、字境界の変更を行うため。

令和5年度由布市一般会計補正予算(第6号)

歳出の主なものとして、庄内町中(水道未普及地域)の配水管布設替の補助金95万2千円。

令和5年7月大雨により被災した市内水産業施設への災害対応事業補助金1,800万円。

県営基盤整備事業7,257万7千円は、県営の6事業に係る事業負担金が確定したものの。

災害復旧費670万円は、元治水井路の災害復旧工事に係る監理委託費と湯布院町畑倉地区の公共土木施設工事の増額。

令和5年度由布市農業集落排水事業特別会計補正予算(第2号)

歳入歳出予算からそれぞれ5万1千円を減額し、総額を1億2,943万2千円とするもので、令和4年度決算に伴い繰越金、および基金積立金が確定したものの。

令和5年度由布市水道事業会計補正予算(第2号)

内容として、収益的支出の委託料827万2千円増額は、挾間取水場の水利権更新業務委託料。資本的支出の請負工事費

の増額は、挾間町東行地区の水圧不足解消によるユニット型ポンプ設置および配水管工事費1,947万円。

	補正額	総額
収益的収入	補正無し	8億8,624万円
収益的支出	827万2千円	8億5,854万8千円
資本的収入	3,340万円	5億9,174万7千円
資本的支出	3,410万円	9億3,196万7千円

全て、全員一致で原案可決

教育民生常任委員会

承認 専決処分の承認を求めることについて

令和5年度由布市一般会計補正予算(第4号)

6月30日大雨災害復旧 …… 庄内芝生広場一部陥没 37万5千円
6月30日落雷 …… 湯布院スポーツセンター制御盤修理 53万円

令和5年度由布市一般会計補正予算(第5号)

高齢者施設、障がい者施設、および幼児保育施設等に対する物価高騰分の補填として支援するもの。

高齢者・障がい者・幼児保育施設 …… 1,996万8千円
有料老人ホーム …… 406万5千円
子ども食堂・児童養護施設 …… 53万2千円

全て、全員一致で承認

由布市特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める条例の一部改正について

本議案は、就学前の子どもに関する教育・保育等の総合的な提供の推進に関する法律の一部改正に伴い、当該条例の第15条第1項第2号中「同条第11項」を「同条第10項」に改めるもの。

令和5年度由布市一般会計補正予算(第6号)

歳出の主なものとして、住民税非課税世帯の見込みが当初4,500世帯であったが、100世帯の増加見込となったことにより、給付金300万円が加算された。

さらに、工事請負費3,894万円は挾間中学校プール改修工事費。

また、56万1千円は、湯布院スポーツセンターの洗濯機5台購入のため。このセンターは施設全体の老朽化が深刻な状況であることから、社会的ニーズに対応すべく、中長期的な施設の在り方を検討するよう意見を付す。

令和5年度由布市国民健康保険特別会計補正予算(第1号)

本補正予算は、歳入歳出の総額にそれぞれ1億2,433万6千円を追加し、総額を41億9,523万1千円とするもの。

歳入の主なものは繰越金で、令和4年度決算から5,657万円を増額。

歳出の主なものは基金積立金で、2,828万5千円を増額。

令和5年度由布市後期高齢者医療特別会計補正予算(第1号)

本補正予算は、歳入歳出に、繰越金・予備費それぞれ207万1千円を追加し、総額を5億5,145万8千円とするもの。

令和5年度由布市介護保険特別会計補正予算(第1号)

本補正予算は、歳入歳出の総額にそれぞれ1億9,116万5千円を追加し、総額を45億5,273万6千円とするもの。

歳入の主なものは、繰越金1億6,401万9千円は令和4年度決算により増額。

歳出の主なものは、償還金7,014万2千円、他会計繰入金3,778万6千円で、過年度精算に伴う負担金の確定による増額。

全て、全員一致で原案可決



令和4年度の決算を審査しました

第3回定例会中に決算特別委員会が開催され、昨年度の決算を審査しました。委員会では、各委員より44項目にわたり質疑を行い、予算執行率等から事業の成果・評価等を確認しました。

※万円未満は四捨五入

一般会計 収支の状況

		令和4年度 a	令和3年度 b	対前年度増減 (a-b)
歳入総額	A	235億2,767万円	230億9,727万円	4億3,040万円
歳出総額	B	226億8,295万円	226億5,942万円	2,353万円
形式収支 (A-B)	C	8億4,472万円	4億3,786万円	4億686万円
翌年度繰越額	D	3億9,286万円	3億3,545万円	5,741万円
実質収支額 (C-D)		4億5,186万円	1億241万円	3億4,945万円

※万円未満は四捨五入

その他会計 収支の状況

		歳入総額 a	歳出総額 b	収支 (a-b)
国民健康保険特別会計		40億8,828万円	40億2,171万円	6,657万円
介護保険特別会計		41億7,803万円	40億1,401万円	1億6,402万円
農業集落排水事業特別会計		8,931万円	8,912万円	20万円
後期高齢者医療特別会計		5億3,058万円	5億2,851万円	207万円
水道事業会計	収益的	9億578万円	7億9,139万円	1億1,439万円
	資本的	2億4,137万円	5億6,919万円	△3億2,782万円

決算質疑

令和4年度由布市一般会計予算

歳入

- Q 特定防衛施設周辺整備事業補助金1億7,497万6千円の予算配分の内訳と方法は。**
- A** 令和3年度繰越分の道路改良事業八山線1,950万円、並柳線1,200万円。令和4年度の道路改良事業八山線6,167万円、尾下線380万6千円、並柳2号線3,500万円、下湯平整備事業1,600万円、並柳地区水道施設整備事業2,700万円。配分方法は、防衛施設対策室で各年度スケジュールを組んでいる。
- Q この補助金で新しい事業が出て、結果的に積み残された事業はどうするのか。**
- A** 監査委員からの指摘もあり、懸案事項として、地元協議も含め今後判断していく。
- Q この補助金で八山橋を現在造っている。中学生が通うスクールバスの通るところであり、安心安全の確保をお願いしたい。**
- A** 八山橋は最重要の工事と認識しており、関係課とさらに協議を重ね、進めていきたい。

歳出

- Q 湯平共同温泉管理事業、工事内容と現在の状況は。**
- A** 工事は新泉源から湯平農民研修センターまで、露出の形で配湯管布設および貯湯タンク更新をした。新泉源の安定的な供給は、定期的なスケール除去を行ったが、結果が出ていない。本年度は、圧力をかけて湯が出るかというのと、管内の掃除をしている。その結果を踏まえ、民間業者に調査協力をお願いをしている。新泉源は大変期待をされており、共同温泉管理組合等と連携をとり、1日も早い湯平温泉復興に取組みたい。
- Q 地域おこし協力隊事業、何名いて、移住定住の状況は。**
- A** 令和4年度の隊員数は6名で、まちづくり協議会、まちづくり観光局、ユフイズム、移住定住、空き家バンクの業務で活躍。定着について、現状では計8名退任し、5名が定住。

Q みらいふるさと寄附金推進事業、寄附への返礼品の内訳は。

A 寄附総額5億5,772万9千円の内、宿泊券が86.5%、菓子類が2.3%、飲料が1.8%、果物が1.5%、残りは加工品やお肉等。

Q 寄附額と事業費の差額2,605万1千円はどう処理をしているのか。

A 寄附者の意向を反映して、令和4年度の支出に直接一般財源として充当している。

Q 由布市に住みたい事業、県外移住者一括補助金対象者は、どこから何名来たのか。

A 補助件数は42世帯71名で、宮崎4世帯11名、福岡6世帯10名、神奈川4世帯8名、沖縄2世帯6名、東京5世帯5名など。

Q サテライトオフィス等利活用推進事業、補助金400万円の成果は。

A 令和4年度からサテライトオフィスの運用開始。ホームページ開設、チラシ・パンフレット作成等、情報発信のプロモーションを実施し、ワーケーション施設として選んでもらうための事業を実施。管理運営を行う民間企業体との契約期間満了を見据え、運営の再構築を図っていききたい。

Q 次世代交通実験事業、当初は市民の移動手段に使う計画も中に入ったと思うが、現状は。

A 本事業は、令和元～3年度に実施したIoT技術等活用したグリーンスローモビリティの効果的導入実証実験のうち、周遊観光で継続実験している事業。高齢者の利用が全体の約1割と少なく、事業経費が収益の約4倍であり、由布院観光エリア内の市民を対象とした活用は困難と判断している。貸与期間が令和6年3月末までで、手続き上はこれ以降返還となる。

Q 湯布院交通渋滞緩和対策、由布院盆地内は制限速度30kmなので渋滞する。実験結果は。

A 2か年の実験が終わり、プロジェクトチーム、協議会から課題が4つ、①ボトルネックの交差点（五差路、新町）、②道路ネットワーク不足、③交通結節点（駅前、バスセンター周辺）での混雑発生、④金鱗湖周辺の駐車場関連の混雑が出ている。玖珠から別府へ直行される方へ県道11号別府一の宮線経由ルートの周知徹底を行っていききたい。

Q 旧湯布院公民館跡地整備事業、測量調査として当初予算438万9千円、支払済額が379万2千円。資料では途中補正・流用しているが、そのままでよかったのでは。

A 児童クラブの位置を学校施設にすると国の補助率が高くなるため、学校敷地として分筆するものでしたが、当初の計画である昨年度中の基本設計までは至らなかったため年度内に測量が完了した分を支払ったという経緯です。

Q コミュニティ施設整備促進事業、乙丸温泉館の工事請負費で不用額1,617万円。この経緯と現在の進捗は。

A 温泉湧出量の確保を優先し、委託費での予算を工事費に流用して先に温泉掘削工事を行った。その後の改修工事は、天候不良が続く工程を大幅に変更したため令和5年度に繰越を行い、本年8月に全て完了した。

Q 社会福祉総務費、挟間忠魂碑解体移設工事費の不用額614万7千円について。

A 令和4年度の工事費は前払金。本年度、忠魂碑解体、借地補修、本体を商工会隣の駐車場へ移設組立てが完了している。借地であったため、跡地は地主へお返しする。

Q 多面的機能支払交付金事業、各地域の団体数と支払額は。大雨による土砂除去にも使えるか。

A 挟間7組織で3,273万円、庄内16組織で9,674万円、湯布院9組織で1,927万円。長寿命化の中に災害の土砂除けという項目があり、使える。

Q 畜産経営支援事業、畜産生産振興対策費の補助金執行率が42.76%。この要因は。

A 庄内の畜産農家1名が堆肥舎の増築を検討していたが、全国的な資材不足に加え、鉄骨防サビ処理に必要な機材が揃わず、事業を断念したことが要因。

Q 新型コロナウイルス緊急対策事業（観光振興）、5千人ゆふ泊キャンペーン業務資金4,068万円。この成果と課題は。

A 市民の評判も良かったが、インバウンド等で予約が取れなかったことも重なり、約4,000人とどまった。8割の予算執行ができ、市民も利用でき、宿泊業界の手助けもできたと思う。宿泊施設の登録は101施設のうち93.94%の施設で補助を受け対応した。

Q 道路維持事業、草刈業務の各地域の件数は。

A 市内主要幹線市道で実施しており、挟間10路線、庄内6路線、湯布院6路線。

一般質問

市政を問う

- 吉村 益則 議員
湯平地域災害復旧復興の進捗状況と今後の予定は 他
- 志賀 輝和 議員
市職員の「地域貢献活動休暇」の創設について問う 他
- 加藤 幸雄 議員
湯布院公民館跡地問題について 他
- 坂本 光広 議員
犬・猫の災害時の対応は
- 淵野 けさ子 議員
6・7月の豪雨災害について検証課題は 他
- 甲斐 裕一 議員
由布市の要望書のあり方について 他
- 佐藤 孝昭 議員
由布市の災害復旧状況と今後について 他
- 佐藤 人己 議員
防災パトロールの実施について 他
- 田中 真理子 議員
災害発生時の気象避難情報について 他
- 田中 廣幸 議員
基盤整備された農地の耕作放棄地問題と今後の対策 他
- 鷲野 弘一 議員
避難行動要支援者の避難計画について 他
- 佐藤 郁夫 議員
市民提案型連携協働事業について 他
- 首藤 善友 議員
災害対策について 他
- 高田 龍也 議員
旧湯布院公民館跡地利用について 他
- 太田 洋一郎 議員
将来想定される自治区の合併や分割についての対策は 他



吉村 益則 議員

「湯平地域災害復旧復興の進捗状況と今後の予定は」 他

Q 湯平地域災害復旧復興の進捗状況と今後の予定は？

A 国土交通省の国庫補助事業の都市防災総合推進事業として着手し、来年度より緊急避難所や避難路を兼ねた遊歩道の整備を行う。今後も、湯平まちづくり協議会と共同温泉など各種地域課題の解決に向けて協議を進める。

Q 地域避難所について（川西、畑倉地区の災害を受けて）。

A 市指定避難所と自治区の自主避難所として公民館の活用があるが、警戒区域にあるなどの点も考慮した上で常に検証し、見直しも必要に応じて行っていく。

Q 五差路の整備と国民宿舎跡地も含めた参宮線の整備はどの様に行う予定か？

A これまでの交通社会実験で得たデータや課題を検討し、五差路も含めた由布院全体の渋滞対策を、市民のご意見を伺いご理解を頂きながら相対的に年次計画を立てながら整備していく。

※そのほか、子育て支援について質問しました。



志賀 輝和 議員

「市職員の「地域貢献活動休暇」の創設について問う」 他

Q 市職員の「地域貢献活動休暇」の創設について問う。

A 年度内に発出が予定されている総務省通知や、他自治体の動向を注視しながら今後研究をしていく。

Q 盛り土による災害防止について問う。市内において盛り土がされている区域の有無と実態把握はいかに。

A 市内35か所について把握をしている。

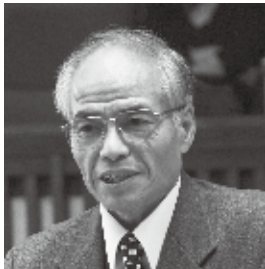
Q 3,000㎡以下の土砂等の小規模堆積行為の規制条例の制定についての見解は。

A 県による指定状況及び県条例の改正の動きを注視し、市条例を制定する必要があると判断した場合は制定に向けた準備を進める。

Q 三船自治区内の盛り土について。住民は盛り土による崩落事故を防ぎ、安心安全な環境の中での生活を営んでいくために、業者と話し合いを重ねてきたが満足いく対策はとられておらず、日々不安の中での生活を強いられている。住民だけによる問題解決についてはすでに限界がきていると思われる。住民と行政が一体となり住民の不安を1日も早く払拭すべきと考えが見解を伺う。

A 地域住民の安心安全の確保のため行政一体となり、問題解決に向け努力をしていく。

※その他、陣屋の村の屋外施設について質問をしました。



加藤 幸雄 議員

「湯布院公民館跡地問題について」 他

Q 湯布院公民館跡地問題について。答申に対する諮問書は無いのか。無ければ答申は出ない気がしますが。

A 諮問書というペーパーは、市のほうからはお示しをしております。

Q 今回の避難勧告で多くの方が湯布院庁舎の避難所に避難され、駐車場は直ぐに一杯でした。公民館跡地を利用は考えてなかったのか。

A 公民館跡地の臨時駐車場利用は、安全対策等未整備であり、使用はしないことにしている。

Q 駅前通りから小学校に回る通路を、由布岳寄りに造るという計画書が上がっている。そこはお店の駐車場が5台ほどある。通路を作る説明はされたか。

A 歩道を付け替える。今ある道路敷の中で計画を向こう側に歩道をつけるということで、一般市道歩道を付けるのと同じだと考えている。

Q 消防団員の報酬について。今回の災害でも団員の方には大変お世話になりました。消防団の出動手当は決まったか。

A 出動手当の改定は現時点では決まってない。出勤報酬は国から標準額等が示されており、引き続き調査・研究したい。

Q やはり県下統一というのが一番良いと思うし、出来れば一番高いところに合わせる気持ちで調整していただきたい。

A 議員が言われるように高いに越したことはないが、いろんな状況を勘案し適切な額に設定すべきと考えている。



坂本 光広 議員

「犬・猫の災害時の対応は」

Q 6月から7月にかけて発生した豪雨災害について、孤立した方をヘリコプターで救助されましたが犬・猫は乗せられなかったが、犬・猫の災害時の対応は。

A 孤立した住民2名につきましては、大分県防災航空隊へ、ヘリコプターの派遣要請を行い救助しました。運航する際の基準につきましては、大分県防災ヘリコプター緊急運航基準により運航しています。防災ヘリコプターによるペットの救助はちょっと難しいというのが現状です。

現在、避難所につきましては、人とペットは分けて避難するような形になっています。案内する中で預ける暇がなければ、各地域に1か所を、預ける場所を確保しております。その場合、水や餌等をケージの中に入れて預けるような形になります。問い合わせ等は受けていますが、実際の実績はありません。

今後、ペットに対応する避難の仕方も含めて、考えていけないといけないと考えています。



湊野 けさ子 議員

「6・7月の豪雨災害について検証課題は」 他

Q 6・7月の豪雨災害について、初動の経緯も含め検証課題は。今後の対策は。

A 本市対策本部(内部)の振り返り会議で、対策本部の各各班から対応に当たった業務について意見が出され、各支部対策本部からも自主避難のあり方等の意見もあり、業務全体を通して改善が必要な事等解決策を洗い出し情報共有した。8月7日の外部関係機関を集めた振り返り会議では、大分県防災対策企画課をはじめ10の関係機関に出席いただく中で「応急対応の外部機関との調整で不明確な所があったか」「応急対応の初動対応が適切であったか」等の意見が出され、対応マニュアルを整備し今後に生かしていく等の方針が出された。

Q 今後のために、精密なドローン購入と職員の育成を望む。

A 災害現場におけるドローンの活動は有効な事から、今後防災危機管理課でも購入して、操作を行う人材育成も含め活用する。

Q 子どもインフルエンザ予防注射2回接種のうち、1回を無料にできないか。

A 今後、接種費の助成拡大は他市の状況を注視して参ります。

※その他、子ども家庭支援センター、带状疱疹ワクチン接種の助成、子宮頸ガンのキャッチアップ接種、農福連携について質問しました。



甲斐 裕一 議員

「由布市の要望書のあり方について」 他

Q 由布市の要望書のあり方について。要望書を出したが「いつになったら出来るのか」「何年待てば良くなるのか」等々の意見がよく聞かれるが、市としてどう対応、処理しているのか。

A 要望書については、自治委員から提出をされたものを自治委員会連合会で取りまとめている。また連合会以外の案件については各振興局で受け付け処理を行っているが、処理できないものは他課と連携して実施している。

Q 挾間地域では宅地開発の造成が進み、人口増の傾向が見られる中、通学・通勤路対策、児童生徒の増が見込まれるがその対策は。また、雨水排水の誘導対策はどのように考えているのか。

A 過去5年間の許可件数は年間10件程度となっており、今年度も10件前後の件数と思われる。挾間地域の北方・下市・上市、由布川地域の古野から、赤野と来鉢でも宅地造成が進み、今後は周辺部へ広がっていくものと思われる。学校での対策として、現在、挾間小学校では令和6年度より増築を行ない、令和8年度の供用開始を行う。また、通学路対策は、各関係機関と協議の上、解消していく。雨水対策としては、開発が進む中で問題が大きくなっていく状況の中、計画的に対策を講じていきたい。



佐藤 孝昭 議員

「由布市の災害復旧状況と今後について」 他

Q 由布市の災害復旧状況と今後について。これまでの災害復旧状況はどうなっているか。特に令和2年7月豪雨分。

A 今後の早期に向けた復旧体制づくりとしては、各地域の整備課と自治区との連携を強化し、自治区ごとに被災状況をスピーディに把握できるよう体制づくりをしていきたい。

Q 令和2年災の復旧を待ち望んでいる方への報告や連絡対応が不十分では。

A 議員が指摘していただいたように、年に何らかの通知を出す、農繁期の前に出す報告する等の方策も含め検討していく。

Q 公営住宅は昭和26年の施行法で住宅に困窮する低額所得者に対し低廉な家賃で供給されるものです。当時から低額所得者状況や増加傾向にある定住促進や民間賃貸アパート状況、戸建公営住宅を売却希望の方もいると聞く。時代背景も変わっています。公営住宅売却条例を布くなど、これからの公営住宅のあり方検討や適性数を集約・集積など見直す時期ではないか。

A その団地の状況や入居者の意向など把握する必要があるので、そうしたものを十分調査をした上で、一定の条件に合うところについては、売却等の方法もあると考えている。そういった事例があって、実行できるよう、十分調査した上で条例制定等にも検討していきたい。

※他に「移住受入地域に補助金を」「移住定住専門員移住マイスターの設置を」「スポーツ施設にふるさと納税の寄付金を」「土木建設業のキャリア教育」等、質問しました。



佐藤 人己 議員

「防災パトロールの実施について」 他

- Q 防災パトロールの実施について、市長を頭に県・市の関係の人たちがたくさん見えてくれました。非常にありがたい感謝をしていますが、パトロールの結果がまだに知らされていないので結果を早く知らせたい。
- A 県・市の関係の機関から、34名でパトロールをしました。地元立会いを実施してパトロールした箇所については、地元地域に対し早急に検討結果をお知らせします。
- Q 旧大津留小学校体育館について、色々なクラブの人が使用していますが、電気が暗いのでにくい。又、明かりを遮断する暗幕がぼろぼろになっています。料金を払っている人たちのためにも、一日でも早い対処が必要不可欠。
- A 夜間に利用者が多いことから、今回は照明の工事を行うことにしました。今後、暗幕のほうも検討します。
- Q 中部林道脇にあるミツマタの群生林について、観光客のために駐車場を考えて欲しい。
- A 条件がそろえば、検討して参ります。



田中 真理子 議員

「災害発生時の気象避難情報について」 他

- Q 避難行動について。
- A 基本的には、警戒レベル3「高齢者等避難」を明るうちに発令、発令した内容が解除されるまでは避難所等での避難をお願いしたい。又、日頃から、由布市公式アプリ「ゆふポ」、大分県の「おおいた防災アプリ」、天気予報などの防災情報に注意していただきたい。
- Q 災害の恐れのある自治区との連絡は。
- A 災害の恐れのある自治区に対して直接連絡をする場合としては、警戒レベル3を出す間も無く、警戒レベル4「避難指示」を出す時には、前もって連絡し状況を伝える。
- Q 防災行政情報等の一元化について
- A 市では、公式アプリ「ゆふポ」を使い、避難指示の内容、避難場所の開設状況、防災情報や各種行政情報をタイムリーに通知してくるアプリの運用を開始している。今後も、アプリの内容の充実を図っていきたい。

※その他、令和4年度の決算の状況について質問しました。



田中 廣幸 議員

「基盤整備された農地の耕作放棄地問題と今後の対策」 他

- Q 基盤整備された農地の耕作放棄地問題と今後の対策を、市として計画はあるか。
- A 基盤整備され耕作放棄地となっている農地は市内各地域で見受けられるが、他の農地と比較して農地を適正に管理する条件が整っている。土地の管理者に管理のお願いはしている。畑としても使えるので、白ネギ、飼料作物、麦等、水田活用の直接交付金制度が受けられる。
- Q 自動車免許を返納した高齢者と通院や買物などの問題解決に電動車椅子（シニアカー）購入者に補助金制度を考えないか。
- A 免許返納支援制度を申請された方は133名（令和4年度）でタクシー乗車補助券が126名、ユーバス無料券が7名。買い物困難者は、令和2年1月調査で推計約3,840人、令和4年12月調査では推計3,470人。市内移動販売事業者は4者、来年は2者増。年々増えているシニアカー補助となると、いろんな制約、検討しないと難しい。



鷺野 弘一 議員

「避難行動要支援者の避難計画について」 他

- Q 災害時に警戒レベル3（高齢者等避難）勧告が発令された時、避難行動要支援者対象者870名（自宅で生活されている方）の避難を手際よく避難するために、介護施設・社協・自治委員・民生委員の協力得て、希望する施設に避難と合わせてショートステイを盛り込んだ避難計画書は出来ないか問う。
- A 福祉避難所については、そのような方法で地域の中で中心的に働いていただきたいと考えています。いつでも避難できる設備等、簡易ベッドや間仕切り等も配備していますが、具体的なところについて各事務所と検討していきたいと考えています。
- Q 消防署の夜間勤務体制について、4名体制で救急車出動し残り1名では火災時出動はできないが、対策について問う。
- A 庄内・湯布院出張所は2班体制で、15名、夜間必要人員4名を確保しています。緊急出動の場合、3名出動します。緊急の場合、最寄りの消防署、非番員の招集を行いません。職員数増については、現時点では難しいと考えています。



佐藤 郁夫 議員

「市民提案型連携協働事業
について」 他

Q 本年度から始める市民提案型連携協働事業の採択団体は決定したのか。

A 7月29日の二次審査で、アートによる湯平のまちづくりをする「湯平藝文會」を選定した。事業開始から完了以降も市は関係部署間で連携を図り、寄り添っていく。

Q 連携型中高一貫教育の由布高校は募集定員に30人程度不足している。このままでは存続が危惧される。対策は。

A 外部人材を招いて、中国語・韓国語を学び就職後にいける授業や、由布高校生が教師役を務め小中学生が由布高校の学びを体験できるドローンプログラミング授業等を行い、由布高校での学びが面白い・魅力的だと思われる学校を目指して取り組んでいます。

Q 由布市教職員の働き方改革の進捗状況はどうなっているのか。

A 教職員の超過勤務時間は、4月・6月は30分減少し、家庭への持ち帰り仕事はICT化により減少傾向にあります。改善策については、安全衛生委員会を開催し、教職員代表者と問題解決に向け協議しています。

※他に「学校給食費無償化」について質問しました。



首藤 善友 議員

「災害対策について」 他

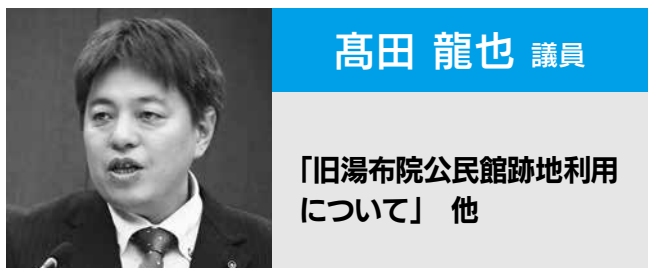
Q 災害対策について。7月に発生した災害、1名は土砂崩れ、2名は花合野川での急激な増水に流されての死亡事故、また、他の業者の作業員の方も大変危険な状態であった。由布市での災害は県下でも突出した状態。災害の大型化の中、復旧工事の強化、予防工事が必要です。住民の声を充分に反映させた計画等、今後の策定について伺う。

A 国の示す基準により原型復旧が原則となっており、外部からの要因（山林から雨水の流れ込み等）を抜本的に解消するための機能向上となる工事を、災害復旧工事で行うことはできません。ただし、再被害防止の観点から、国の基準内において、必要な対策を講じている状況です。

Q 県下一高、由布市の介護保険料。引き下げ、減免制度の更なる拡充を行うべき。9期の介護保険策定にあたって引き下げを求める。

A 一般財源を市の法定負担率を超えて繰り入れる事は適当ではないと考えています。ただ、基金につきましては、今後9期の計画策定の中に、なるべく保険料が高くないように努めてまいります。

※その他、インボイスの中止、拡がりゆく学校給食の無償化等、市の姿勢をただした。



高田 龍也 議員

「旧湯布院公民館跡地利用
について」 他

Q 旧湯布院公民館跡地利用について。現状の計画では既存の歩道が廃止されるが歩行者の安全確保はされているのか。

A コンビニエンスストア側にグリーンベルトを設けるようにしている。市民の皆様のご意見をを受けて検討する。

Q 現状では通学路となる歩道には、車道と分離する柵があるが、グリーンベルトを設けた場合の説明は。

A 関係課の協議、庁舎内の会議があり検討中。教育委員会、現場の校長先生と詰めPTAの意見も重要と考えている。

Q 通学路として現状利用している歩道がなくなるが、教育長は聞いているか。

A 現時点では聞いていません。

Q 湯布院庁舎の浸水について。何故、設計図どおりに施工し直した湯布院庁舎がまた浸水したのか。

A 原因と対応策について、設計・施工会社や第三者機関とも協議し、庁内で決定後、市民へ報告を予定している。

Q 何故、浸水が起きたという結果の報告が未だにないのか。

A 前回の様な浸水ではなかった、原因が分かっていない、今後の対応も決まっていないから。

※他に、由布市の開発について、由布市の財政について、以上大きく4点を質問。



太田 洋一郎 議員

「将来想定される自治区の
合併や分割についての対
策は」 他

Q 将来想定される自治区の合併や分割についての対策は。現在、自治区の中には人口減少や高齢化等により自治委員の選出や地域内の自治活動に支障を来す自治区や、反対に人口増加に伴い自治区の規模が大きくなり、自治区の分割を希望する地区があると聞かすが、その場合の対応策等は考えているか。

A 自治区の統合等については、地域住民主導により検討していくものと考えているが、現在、自治委員の選出や自治区の統合に関して数件の相談が寄せられており、担当職員が地域に向き課題の整理や自治区が統合する際の考え方などを説明し、協議している。こうした自治区の課題に対応するため、考え方の整理や問題点の洗い出し等を行い、必要に応じて関係条例や規則の改正を検討する。

Q 自治区等の相談等にしっかり向き合い、早急な対応が取れるよう準備してほしい。

A 担当課より報告も受けているし、個人的にも市民の方から聞いている。今後、対応できるよう取り組みたい。

視察研修報告 総務常任委員会

1. 調査研修の期間 令和5年7月10日(月)～12日(水)
2. 調査研修視察者 (委員長)田中真理子、(副委員長)佐藤孝昭、淵野けさ子、長谷川建築、鷲野弘一、太田洋一郎、議会議務局

1 茨城県境町 (人口23,856人)

① 境町のふるさと納税の取り組みについて(株式会社さかいまちづくり公社)

【視察の目的】 境町は、ふるさと納税に力を入れていて寄付額ランキングは関東で常にトップクラスで県下では7年連続1位を達成している。また、子育て世代が住みたい田舎部門で関東1位です。移住でも子育て支援でも注目されているまちです。

境町では財政改善・資金確保のためにふるさと納税に取り組み平成25年度には7件で7万円だったものが、令和3年度には約29万件で49億円でまで急拡大している。このふるさと納税の拡大に伴って町の貯金も増加の一途をたどり、令和2年度には32.9億円まで増え、町政を充実するための資金確保に成功しています。

ふるさと納税の成功の基になっているのは、道の駅さかいを拠点施設とした、さかいまちづくり公社(地域商社)を中心に返礼品の充実に取り組み、施設内にさかいサンドや沖縄県国頭村公設市場をプロデュースするなど拠点整備を工夫、さらに特産品の開発として干し芋やワイン醸造を産業化することで雇用の場も充実させています。



鉄道がない町にとって高齢者や子どもたち

の貴重な地域の足となっている自治体初の自動運転バスもこの財源と補助金を活用し



定常運行しています。バスは低速かつ料金0円で運行、町の持ち出しはなく公共交通による経済効果は7億円と推定されています。その他にも、定住促進戸建住宅事業を導入し20年住んだら土地建物を無償譲渡するなどの移住定住政策が充実していました。

【視察の感想】 境町は、町長を中心に、議会、行政、民間企業、住民が同じ方向を向いて一体となり、発想力とスピード感を持って取り組んでました。また、町外の方の観光利用や、全国の自治体や大学・民間団体等からの視察も相次いでおり、「全国に横展開できる近未来モデルへ！」境町のチャレンジは、日本の将来に対するチャレンジであり、どこの地方自治体にもある課題解決のための挑戦だと感じました。私たちも、今後も、住民が安心してシビックプライドを持って住み続けられるまちを目指していければと思います。

2 埼玉県飯能市 (人口79,523人)

① “農のある暮らし”「飯能住まい」制度について(飯能市役所)

【視察の目的】 地域の75%を森林が占めており自然豊かな環境の飯能市では、「優良田園住宅制度」を利用することで一定の条件や要件を満たせば、新たな住宅の建設が可能であるところが飯能住まい制度の最大の特徴です。また、移住後は「なりわい」としての農だけではなく、移住者のニーズに応じて「農業体験参加型」「家庭菜園型」「農園利用型」「農地利用型」の4つのプログラムから自分に合った“農のある暮らし”を選ぶことができます。さらに満喫していただくために、農に関する講習会や作付け指導等、ニーズに応じた支援も行っています。

このほか、飯能住まい制度を利用して最大397万円の移住に対する補助制度を受けられ、移住者にゆとりと潤いのある生活を送っていただける仕組みがありました。

【視察の感想】 飯能市は、平成26年5月にいわゆる消滅可能都市に挙げられたことをきっかけに人口問題対策プロジェクトを立ち上げ、飯能市の名前にかけた「半農ライフ始めませんか？」をキャッチコピーに、農業体験型から本格的な農業まで4種類ものプログラムが用意され多様化する住民ニーズに十分こ

たえられる内容になっていて、日常生活の中で農業にふれながら、都会に通勤できるという取り組みをしています。本市も耕作放棄地が増加傾向で、若者の農業離れ傾向でもあります。「農ある暮らし」を充実させることにより、自然環境の豊かな中で農ある暮らしを送りたい方の移住定住を促進し、地域農業への様々な形で関わっていただく方が増えることで文化やコミュニティの維持と地域農業の活性化にも繋がる取り組みと感じました。



視察研修報告

教育民生常任委員会

1. 調査研修の期間 令和5年7月12日(水)～14日(金)
2. 調査研修視察者 (委員長)平松恵美男、(副委員長)吉村益則、甲斐裕一、加藤幸雄、坂本光広、首藤善友、議会議務局

1 北海道ニセコ町

① ニセコスタイルの教育とニセコ高校の取組みについて

ニセコ町教育振興基本計画の中で、目指す子ども像として「ニセコに誇りを持ち、たくましく生きる人」を掲げており、幼児センターから高校まで連続性のある一貫した教育、ふるさと学習、英語教育の充実、コミュニティスクールとの連動などの取組みを推進している。

また、町立ニセコ高校は、昼間定時制課程の農業高校で、全国唯一の緑地観光科を置き、高校魅力化検討委員会を設置し、生徒数の確保に努めている。



② ユニセフ日本型子供にやさしいまちづくりについて

ニセコ町まちづくり基本条例第11条では、「子どものまちづくりに参加する権利」を規定しており、日本ユニセフ協会の提唱する「日本型CFCI実践自治体」として参画している。取り組みとして、「小中学生まちづくり委員会」があり、自分の住むまちの理解を深めてもらい、自分たちの眼で町の課題を確かめながら、子供なりの議論と提言を行っている。

他にも、町の議場で「子ども議会」を開催し、一般質問では町長をはじめ執行部が対応しており、これまでに街灯が少ない通学路の整備や、給食のメニューの提案などが実際に予算化されている。令和3年度から、子ども関連施策に対応する「子ども未来課」が設置された。

2 ^{くっちゃん}北海道倶知安町

① 倶知安町社会教育中期行政計画について

令和2年3月に「生きがいを求めてつながりあうまちづくり」を基本目標として計画を策定のうえ、令和6年度までの5年間、取組みを進めている。特徴として、家庭教育、小年教育、青年成人教育、高齢者教育、スポーツ振興、文化芸術、文化財、社会教育推進の基盤整備の8領域を各部署連携により、体系化、年次評価を行いながら横断的に取り組んでいる。社会教育の推進に不可欠である26の施設については、「倶知安町社会教育施設個別施設計画」を別途策定し、今後、機能集約や廃止など、必要な措置を講じる事となっている。



3 まとめ

国際的なリゾート地として脚光を浴びる二つの町であるが、それぞれの課題解決に自治体として難しい舵取りになると思われる。由布市においても起きている事であり、人口減少や少子高齢化といった現状の中で、問題の解決に向けて勇気を持って取り組んでいく事の必要性を改めて感じた視察となった。



視察研修報告

産業建設常任委員会

1. 調査研修の期間 令和5年7月18日(火)～20日(木)
2. 調査研修視察者 (委員長)加藤裕三、(副委員長)田中廣幸、佐藤人己、佐藤郁夫、高田龍也、志賀輝和
議会議務局

1 青森県十和田市

① 緑化推進事業について

官庁街通り(駒街道)は碁盤目状に整然と区画された町並みの中で、ひととき美しい十和田市のシンボルロードを中心に環境緑化事業が市民参加型として、緑化意識の高揚などを目的として行われています。特に、4月下旬開催の春まつりは、樹齢100年を超えるものもある155本のソメイヨシノの開花時期に合わせ15万人もの参加者があり、野外展示された現代アート作品と相まって賑わいを見せています。

また、「オープンガーデンとわだ」の取組みについては、自宅や職場の庭や花壇を一般市民に開放し、自ら手入れをした自慢の庭を見てもらうものであり、公開する方、観覧に来る方、双方



の緑化意識の向上や、緑や花の溢れる市内の景観形成を図っているものです。庭木や花に興味のある方向士が繋がれることで、地域交流の活性化にも役立っています。

近年、参加する団体、個人が減少傾向にあることや財政面においても厳しい状況にあり、市民団体との協働による維持管理のパートナーシップを結び負担軽減策を講じ継続しています。

2 岩手県岩手町

① 岩手町型農業と薬用作物について

岩手町は食糧生産拠点のまちとして、米、野菜、畜産、葉たばこなど複合的農業「岩手町型農業」を展開し、農業産出額約134億円(平成22年度)の食糧供給基地となっています。販売



額が1億円を超えるものとして、キャベツ、ピーマン、長いも、レタス、大根、白菜があり、特にキャベツに関しては19億円を達成しています。

また、複合的農業を推進するうえで耕畜連携の取組みも続けており、現在は堆肥供給者・JA・町が連携し、堆肥購入助成のシステムを構築していました。

薬用作物については、生産50年の歴史があり、その発端は転作



への興味から始まっていました。薬草組合を作り、出荷先も確保しながら作付面積を増やしてきました。町もセミナー開催や補助金等で支援をしてきましたが、農家の高齢化や離農の増加等の問題があり、製薬メーカーに事業継承し効率化を目指しています。産地拡大に、メーカーと町の連携に加え町単独事業による支援策により更なる産地化を目指しているとのことでした。

3 まとめ

少子高齢化のみならず物価高騰など市民生活が厳しい状況、また自治体においても厳しい行財政、経済の再生、地域活性化など市民の安全・安心なまちづくりを進めるなか、町の将来を見据え諸課題の解決に向け、国内さまざまな先進地の現

状課題を調査、研究し、今後の由布市にどう取り入れ、生かしていくのか強く感じた研修となりました。



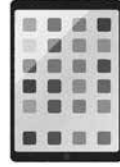
議会活性化調査特別委員会の報告

委員長 佐藤孝昭 他委員8名

令和3年12月14日から活動を始めた当委員会も、前期2年間の経過という節目を迎えます。そこで、当委員会における2年間の活動をご報告します。

●議会のICT化(タブレット端末導入)

- ・会議回数…9回(令和3年12月以降で集計)
- ・令和6年第2回定例会(6月議会)から本格使用開始で決定。
- ・タブレット端末を十分生かせるよう、各議員とも自己研鑽に努めていきます。



●由布市議会基本条例の検証

- ・会議回数…14回
- ・条例施行後、初めての検証を行い、令和5年3月23日に議長へ報告書を提出しました。
- ・検証結果を踏まえて、今後は条例改正の検討をしていきます。



●議会報告会の開催

- ・令和5年5月17日(庄内)、18日(湯布院)、19日(挾間)で実施。
- ・コロナ禍により長年できなかった報告会を開催し、議会報告と「議員のなり手不足」について協議ができました。
- ・参加人数は少なかつたものの若者の姿が多く見られ、今後も毎年実施し皆様と一緒に考えていく機会を設ける必要性を感じました。



これまで、上記のような活動を通して議会活性化の取組みを行って参りました。今後もこの取組みを継続しながら、皆様と一緒に地域課題の解決に向け、由布市議会、ひいては由布市を盛り上げていきましょう。

議員研修会を開催しました

令和5年度由布市議会議員研修会を、8月24日(木)に開催しました。講師に、大分大学学長相談役の石川公一氏をお招きし、「地方議会の当面する課題」という演題にてお話を伺いました。

講演では、大分県庁職員、別府市助役、大分県教育長から大分県副知事を務めた石川氏の、長い行政経験の中で直面した様々な課題・問題への対処や解決に至った要点などを聞きました。中でも、コンプライアンス(法令遵守、社会規範の遵守)を意識しながら説明責任を誠実に果たすことの重要性を強く解説されておりました。

研修後、議員からは、今回の研修は良かった等の声が聞こえ、二元代表制の一翼を担う市議会として各議員それぞれが講義内容を受け止め、更なる議会活動の活性化に資する研修となりました。



※由布市議会基本条例

第16条第1項…議会は、議員の政策形成、政策立案等に係る能力の向上を図るため、議員研修の充実及び強化に努める。

大分県後期高齢者医療広域連合議会 報告

■令和5年第2回大分県後期高齢者医療広域連合議会定例会

日時/令和5年8月7日

後期高齢者医療広域連合議会議員 太田洋一郎

●大分県後期高齢者医療広域連合副広域連合長の選任に関し議会の同意を求めることについて

別府市長選で再選された長野恭紘氏を副広域連合長に再任するため、議会の同意を求めるもの。

●大分県後期高齢者医療広域連合監査委員の選任に関し議会の同意を求めることについて

3月14日をもって広域連合議員を辞職した高橋弘巳氏の後任として、仲家孝治氏を監査委員に選任するため、議会の同意を求めるもの。

●令和4年度大分県後期高齢者医療広域連合歳入歳出決算の認定について

一般会計	歳入	9億8,844万1,829円
	歳出	8億7,432万3,957円
	残額	1億1,411万7,872円

特別会計	歳入	2,047億3,201万3,538円
	歳出	1,981億1,071万4,250円
	残額	66億2,129万9,288円

●令和5年度大分県後期高齢者医療広域連合一般会計補正予算(第1号)

歳入歳出それぞれ4,203万1千円を減額し、総額9億7,246万9千円とするもの。歳入では、負担金の減額、並びに繰越金の増額による。歳出では、総務費の増額、並びに民生費の減額による。

●令和5年度大分県後期高齢者医療広域連合特別会計補正予算(第1号)

歳入歳出それぞれ53億8,485万円を増額し、総額2,131億3,185万円とするもの。歳入では、国庫支出金および繰入金の減額、並びに繰越金の増額による。歳出では、総務費の減額、並びに諸支出金及び予備費の増額による。

全て、賛成多数で可決しました。

■令和5年第3回定例会で審査した請願・陳情の結果

区分	件名	代表提出者	結果
請願3	地方財政の充実・強化を求める意見書採択について	大分県地方自治研究センター 理事長 中山 敬三	採 択
請願4	義務教育費国庫負担制度の堅持を求める請願	大分県教職員組合由布支部 執行委員長 浜小路 国弘	採 択
請願5	インボイス制度の実施延期を求める意見書を政府に送付することを求める請願	大分民主商工会 会長 河野 正則	趣旨採択

■賛否一覧表

〔令和5年第3回定例会〕

※○=賛成、●=反対 議長(長谷川建策)は採決に加わらない。
※その他の上程された議案については、全員一致で認定・適任と答申、可決した。

議案名	議員名	議決結果	議員名																				
			賛成	反対	長谷川建策	鷺野弘一	田中真理子	佐藤人己	洲野けさ子	佐藤郁夫	甲斐裕一	加藤幸雄	太田洋一郎	平松恵美男	加藤裕三	田中廣幸	吉村益則	坂本光広	高田龍也	佐藤孝昭	志賀輝和	首藤善友	
認定1	令和4年度由布市一般会計及び特別会計の歳入歳出決算の認定について	原案認定	16:1	-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	●
承認7	専決処分の承認を求めることについて「令和5年度由布市一般会計補正予算(第4号)」	承認	16:1	-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	●
承認8	専決処分の承認を求めることについて「令和5年度由布市一般会計補正予算(第5号)」	承認	16:1	-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	●
議案63	令和5年度由布市一般会計補正予算(第6号)	原案可決	16:1	-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	●
議案66	令和5年度由布市介護保険特別会計補正予算(第2号)	原案可決	16:1	-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	●

編集後記

本年6月・7月に発生をした豪雨災害により尊い生命を奪われ、お亡くなりになられました3名の方々のご冥福をお祈りするとともに、被災をされました皆様方に謹んでお見舞いを申し上げます。

私共広報編集委員9名は、本「議会だより」を最終だよりとして2年の任期を終えることとなります。加藤幸雄委員長の下、議会をいかに市民の皆様方に身近に感じてもらい、もっともっと議会を知っていただくための広報誌づくりを行ってまいりました。

多様化する社会情勢の中での議会活動を、限られた紙面上で少しでも市民の皆様方にあれも伝えたい、これもお知らせしたいとの思いの中で、文字数が多くなり、字も小さくなり、見づらい紙面になったことは否めません。

次回「議会だより」No73より新しい広報編集委員により発行されます。さらに見やすく、市民の皆様方に親しみを持っていただき「議会だより」を通じて議会への参画をしていただく事ができるよう議員一同、新しい広報編集委員共々頑張っております。

志賀 輝和

議員は公職選挙法に基づき以下の行為は禁止されております。

- 地域の行事やスポーツ大会への寄附や差し入れ
- お祭りへの寄附や差し入れ
- お中元やお歳暮
- 年賀状や暑中見舞いなど時候の挨拶
- 病気見舞い
- 葬式の花輪や供花
- 本人が出席しない場合の結婚祝や香典
- 初盆のお供えやご仏前

市民の皆様のご理解をよろしくお願いいたします。

市議会
ホームページ



議会広報編集特別委員会

委員長 加藤 幸雄
副委員長 首藤 善友

委員 田中 真理子 洲野 けさ子
加藤 裕三 田中 廣幸
坂本 光広 佐藤 孝昭
志賀 輝和

次の由布市議会は 11月30日(木)に開会予定です(令和5年第4回定例会)